

アサガオの立場になって世話を考えることによって、 これからの栽培活動への見通しをもつ学習

1 単元名 「きれいにさいてね わたしのはな」 (15 時間)

2 単元について

本単元は、学習指導要領内容（7）「動植物の飼育・栽培」を基に単元を構成し、内容構成の具体的視点「キ 身近な自然との触れ合い」「ク 時間と季節」を位置付けています。

事前調査の結果から、花を一人で育てた経験がある児童は少なく、花を育ててみたいという児童は多くいることが分かりました。しかし、栽培経験の少なさから、自分一人の力で花を育てられないと感じている児童が多く、花の育て方を調べることへの必要感をあまり感じていないことが伺えます。

そこで、継続して安心感をもち栽培活動ができるように、対象と関わることでできる体験を多く取り入れていきます。具体的には、1次で、2年生が大切に育て、プレゼントしてくれたアサガオの種を植えるための準備を自分たちで行うなど、出会いから生まれた思いや願いを活動に生かしていくことを大切にしました。また、花を咲かせる期待感をより一層高められるように、生活科

「はるをみつけにいこう」では、春の草花を探しに出掛け、図工「どんどんかくのはたのしいな」では、自分が咲かせてみたい花の絵を描くなど、単元や他教科の関連により、児童の思いや願いが一層強く、確かなものになるようにしました。

指導で一番大切にしたいことは児童自身が気づき、考えようとする姿を教師が待つことです。児童は、2年生から種を貰ったことで、「この種を大切に育てて来年の一年生に種をプレゼントしたい。」という強い思いをもっています。そのため、教師が植え方や世話の仕方を教えなくとも自分で考えて何とかしようとします。そのような時に、全体で考えを出し合ったり、深め合ったりする表現活動を設定します。児童の思考の流れに自然と位置付くような表現活動を設定し、アサガオの世話を通して、生命の尊さを感じさせるとともに、上手に世話をできるようになった自分自身の成長にも気付かせていきます。

【重視した児童の実態】

- 花を育てたことはあるか。
 - ・ある・・・・・・・・・・22人（65%）
 - ・ない・・・・・・・・・・12人（35%）
- 花を一人で育てたことはあるか。
 - ・ある・・・・・・・・・・10人（29%）
 - ・ない・・・・・・・・・・24人（71%）
- どんな花を育てたことがあるか。
 - チューリップ7人、ヒマワリ6人、アサガオ5人、ラベンダー4人、コスモス3人、分からない6人
- 育て方を調べたことはあるか。
 - ・ある・・・・・・・・・・15人（44%）
- 花を育ててみたいか。
 - ・育てたい・・・・・・・・30人（88%）
- 花を一人で育てられそうか。
 - ・できる・・・・・・・・・・24人（71%）
- 花を育て気付いたことを誰かに伝えたか。
 - ・伝えたい・・・・・・・・26人（77%）

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

アサガオを育てる活動を通して、育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち働き掛け、生命をもつことや成長していることに気付くとともに、世話をし育てることができた自分自身の成長にも気づき、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

(2) 単元の評価規準

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気づき
植物やそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、生き物に親しんだり、大切にしたりしようとしている。	植物を育てることについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現している。	植物は生命をもっていることや成長していること、それに合った世話の仕方があること、及び世話ができるようになった自分に気付いている。

(1) 単元の指導計画

《生活科を通して育てたい本校の資質・能力と単元との関わり》

段階	時間	学習内容・学習活動	他教科、他領域との つながり	次の学びに生かす児童の 姿
学 ぶ め あ て を も つ 確 か な 追 求 ・ 解 決 ま と め	① ② ③ ④	<p>【第一次】「たねをまこう」（４時間）</p> <p>○２年生からプレゼントされた手紙とあさがおの種と出会う。</p> <p>種を大切に育てて、来年の１年生にプレゼントしよう。</p> <p>○種まきの準備をする。</p> <p>・種まきの準備について、調べたり聞いたりしたことを話し合い、種や鉢、土の準備や種をまく時期を決める。</p> <p>○種の形などを生活科カードに記録する。</p> <p>○種撒きをする。</p> <p>あさがおさんをきれいにさかせよう。</p>	<p>図工 「ざんどんかくのはたのしいな」</p> <p>生活科 「きせつとなかよし」</p>	<p>２年生からプレゼントされた種を大切に育て花を咲かせ、来年の１年生にプレゼントしたいという思いや願いをもつ児童の姿。</p>
学 ぶ め あ て を も つ 確 か な 追 求 ・ 解 決 ま と め	⑤ ⑥ ⑦（本時） ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫	<p>【第２次】「おせわをしよう」（４時間）</p> <p>あさがおさんの世話をしよう。</p> <p><継続的に取り組む活動></p> <p>○水やり ○草取り ○観察 ○枯れた花の手入れ（朝の活動）○アサガオ日記 ○朝の自分ニュース</p> <p><生活科の時間での活動></p> <p>○一人一人の気付きを広げたり深めたりするために行う。（喜び、困り感を共有し、解決策や今後の栽培活動について話し合う）</p> <p>【例】・発芽や双葉のとき ・肥料が必要なとき ・支柱が必要なとき ・花が咲いたとき ・花が散ったとき ・種ができたとき ・枯れたとき</p> <p>※その他、自分なりの発見や児童からのお願いがあったときは、適宜活動を設定する。</p> <p>たくさんお花が咲いたね。でも、おわかれだね。</p>	<p>体育 「表現リズム遊び」</p> <p>国語 「えとことばでかこう」 「みんなにはなそう」</p> <p>道徳 「Ｄ生命の尊さ」 「きどきどききんぐ」</p>	<p>アサガオの立場になって世話の仕方を考え、楽しみながら世話や観察を続ける児童の姿。</p> <p>種取りが終わったアサガオをどうするかを考え、生きていることの素晴らしさに気付き、今できる関わりを見付ける児童の姿。</p>
学 ぶ め あ て を も つ 確 か な 追 求 ・ 解 決 ま と め	⑬ ⑭ ⑮	<p>【第３次】「わたしとあさがお」（４時間）</p> <p>あさがおさんとおわかれしよう。</p> <p>○アサガオの成長や自分との関わりを振り返り、自分なりの方法でアサガオの記念品を作り、交流する。</p> <p>○来年の一年生のために種のプレゼントを作る。</p> <p>○単元を振り返り、手紙を書く。</p> <p>あさがおさんありがとう。 一緒に成長できました。また来年会おうね！</p>	<p>国語 「たのしかったことをかこう」</p>	<p>アサガオとの関わりを振り返り、生命をもつ成長している自分自身も成長したことに気付き、他の生き物も大切にしようとする児童の姿。</p>

(2) 「6つの資質・能力」との関連を図る単元構成の工夫

研究視点1-1

児童自身が、学びを次に生かすには、対象に対しての児童の思いや願いが醸成され、対象に行為しようとすることで成立します。そのためには、対象と存分に関わる直接体験を重視する必要がありますと考えました。そこで、アサガオの種を植えるために必要なものやことを考える活動や、花を咲かせることに期待感をもつことができる活動を1次で設定しました。

1次では、栽培活動への意欲を喚起するために、関わりの深い2年生に種をプレゼントしてもらい、簡単な育て方を教えてもらうなど出会いを工夫しました。出会いにより、「自分たちもこの種を大切に育てて、来年の1年生にプレゼントしたい。」という思いや願いをもつことができました。この思いや願いに沿った活動を教師が設定することが、児童にとって必然性のある活動になると考え、単元を進めました。例えば、「大切な種を取っておきたいけど、植えたい。」という思いに対して、『大切な種を絵に残しておこう』という活動が児童の思考の流れに沿った活動になります。また、「種をすぐ植えたいけど、2年生は種は赤ちゃんみたいに弱いから、植えるためにしっかり準備してねって言っていた。」という、児童の気づきを生かし、『種を植える準備をしよう』という活動が必然的な活動になります。

また、導入で生活科「きせつとなかよし」や図工「どんどんかくのはたのしいな」の学習と関連させることで、花を咲かせることへの期待感を高めました。具体的には、春の草花を見付けに探検に行きます。色とりどりの花を見付けることで、「自分の種は、何色の花が咲くのかな。」という思いを膨らませる児童の姿を期待します。また、こんな花が咲いたらいいなという願いを「どんどんかくのはたのしいな」で表現することで、思いや願いを確かなものにしていきます。

出会いによって生まれた思いや願いが、「大切に育てよう」という意識につながり、そのために必要な活動を児童発信で進めていけるようにしました。

(3) 児童の思考を整理する板書と発問の工夫

研究視点2-2

児童の思考が整理され、新たな気づきが生まれることで、対象との精神的な距離が近くなり、学びを生かし、対象と関わっていくようになります。そこで、本時では、新たな気づきが生まれるよう、今までの世話の仕方をアサガオの立場になって振りかえられるように板書と発問を工夫しました。

具体的には、まずはアサガオにとっての幸せについて、多面的、多角的に考え、板書に整理していきます。また、「アサガオは幸せかどうか」という二者択一の発問により、どの児童も自分の考えをもてるようにしました。決まった答えがなく、自分なりの考えを自由に話すことができるように配慮しました。児童が、理由としてあげるのは、今までの自分の世話やアサガオの成長であるので、世話と成長を関連付けて考えられるようにしていきます。

次に、「幸せアサガオ探し」で元気なアサガオを見付け、友達の世界話の仕方を聞くことで、適切な世話の仕方に目が向くようにしていきます。これからどのように世話をしていたらいいのか考えられるように児童の考えを板書で整理し、それを基に考えられるようにしました。

(4) 適切なフィードバックのための評価規準の具体化

研究視点3-1

教師の適切な働き掛けにより、児童は次の活動や行動の筋道をつくり出していきます。そのためには、教師が活動において目指す児童の姿を明確にし、状況に応じて適切な働き掛けをすることが必要です。

本時では、目指す児童の姿を「これまでの関わりと、アサガオの変化や成長を関連付け、アサガオの立場になって世話の仕方を考えている。」とし、支援を要する児童の手立てとして、今までの関わりが分かる写真や学習カードを提示し、児童一人一人の世話を頑張っていた様子をフィードバックするようにします。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

これまでの世話の仕方とアサガオの様子から、これからの世話の仕方を考えている。

(2) 本時の展開（15 時間扱いの 7 時間目）

学習内容と主な学習活動	研究とのかかわり・留意点
<p>1 これまでのアサガオとの関わりを想起する。</p> <p>2 世話やアサガオ日記など、頑張ってきたことを交流する。</p> <p>3 本時の学習内容を確認する。</p> <p style="text-align: center;">----- これからの 世話のしかたを かんがえよう。 -----</p> <p>4 アサガオ相談ボックスの悩みをグループで相談し、世話の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、水をたっぷりあげたから、私のは元気に育っているよ。 ・水のあげすぎはよくないよ。 ・アサガオは水の他にも御飯がいるんじゃないかな。 ・太陽がよくあたるところに私は引っ越ししたよ。 	<p>○児童が多様に表現できるように、写真や絵などを用意しておく。</p> <p>○アサガオ相談ボックスや世話をしている時のつぶやきなどから、困っている人がいることについても確認する。</p> <p>◇児童の思考を整理する板書と発問の工夫 研究視点 2－2</p> <p>○アサガオが元気になるためにどのような世話が必要か、既知の視点（土、水、日当たりなど）を基に予想できるよう黒板上で整理する。</p>
<p style="text-align: center;">大きくするためには、土の栄養も必要だね。水のあげ方も考えてあげないとね。 日当たりがいいところの方がきっと大きく育ってくれるね。</p>	
<p>5 自分のこれからの世話について考え、アサガオ日記にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水のあげ過ぎに気を付けるね。 ・土の栄養が足りないのかな？アサガオの御飯をあげるね。 ・あたたかいところへ引っ越ししてあげるね ・雑草取りも頑張るよ。 ・雨の日は、雨雲が代わりに水をくれるから心配しないでね。 <p>6 片付け</p>	<p>○アサガオを持ってくる。</p> <p>◇適切なフィードバックのための評価 規準の具体化 研究視点 3－1</p> <p>【評価規準イー②】 これまでの関わりと、アサガオの変化や成長を関連付け、既知の視点を基に適切な世話の仕方を考えている。 （発言、ワークシート、行動観察） <u>支援を要する児童の手立て</u> ・今までの関わりが分かる写真や学習カードを提示し、これまでの世話について想起することができるようにする。 ※できれば一人一人の充実感を感じている写真を用意。</p> <p>○テラスにアサガオを戻す。</p>

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

- これまでアサガオのためにしてきたことを振り返り、適切なアサガオの世話の仕方について既知の視点（土、水、日当たりなど）を基に伝え合う児童の姿。
- 元気なアサガオになるような世話の仕方を自分なりに考え、見通している児童の姿。

アサガオの立場になって世話を考えることによって、 これからの栽培活動への見通しをもつ学習

～1年「きれいにさいてね わたしのはな」の実践を通して～

林 裕 輔

I はじめに

全体研究の3年次のテーマ「子供が学びをつなぐ学習づくり」を受け、生活科の3年次研究では、児童自身が学びをつないでいけるような学習について研究を進めた。

次期学習指導要領では、『資質・能力』の育成のためには、『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る』ことが鍵となる。単に思いや願いを実現する体験活動を充実させるだけではなく、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視するなど、気付きの質を高めることを意識することが大切である。」とされている。このことから、今まで大切にしてきた気付きの質を高める学習が主体的・対話的で深い学びであり、「資質・能力」の育成につなげることができる。気付きの質を高める学習を構築するために大切にしたいことの一つが表現活動の工夫である。充実した体験活動の学びを次の体験活動につなげるには、表現活動を児童の思考に沿ったものとなるよう工夫していくことが不可欠である。

そこで、生活科3年次研究のテーマを「相手や目的を意識した表現活動により、次の学びに生かす生活科の学習づくり」と設定した。気付きを確かなものにしたり、新たな気付きを得たりするため、多様に表現し考えることのできる表現活動について研究を進めた。



世話の仕方を見通す児童の姿

II 研究の目的と方法

本研究の目的は、児童自身が学びをつないでいくことができる表現活動について明らかにすることである。そのために、以下の2つの視点から、授業実践「きれいにさいてね わたしのはな」における児童の様子について分析する。

- ① 児童の思考を整理する板書と発問の工夫
- ② 適切なフィードバックのための評価規準の具体化

なお、研究の対象とした単元の概要は以下のとおりである。

1 単元名 「きれいにさいてね わたしのはな」

2 単元の目標

アサガオを育てる活動を通して、育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち働き掛け、生命をもつことや成長していることに気付くとともに、世話をし育てることができた自分自身の成長にも気づき、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

3 単元の概要

本単元は、学習指導要領内容(7)「動植物の飼育・栽培」、及び内容構成の具体的な視点「身近な自然との触れ合い」「ク 時間と季節」を基に構成されている。

アサガオを育てることを通して、生命の尊さを感じるとともに、上手に世話をできるようになった自分自身の成長に気付く姿を期待している。

そのために、本単元では、まず、2年生から一人一人にアサガオの種をプレゼントされ、自分一人で育てることに挑戦した。次に、「きれいな花を咲かせたい。」「自分たちも種をプレゼントしたい。」という思いや願いをもち、アサガオに心を寄せ、変化や成長に応じて世話を工夫していくことができるようにした。最後に、アサガオと過ごしてきた日々を振り返ることを通して、自分も成長してきたことに気付くことを目指した。

Ⅲ 結果と考察

1 児童の思考を整理する板書と発問の工夫

(1) 結果

これまでの世話の様子やアサガオ日記の記述内容等から、児童が感覚的に「水」「土」「日当たり」の大切さに気付き、世話が続けていることが分かっていた。そこで、本時では感覚的に分かっている「水」「土」「日当たり」についての気付きを中心に、板書において整理をしていった。

「水」については、水の量について気を付けて世話をしている児童を紹介し、それぞれどのくらいあげているのかを問うことで、自分なりに考えて世話をしていることを自由に発言する児童が増えた。「あげすぎじゃない。」という児童のつぶやきに対して、「あげすぎはよくないの。」と教師が返すことで、「アサガオが溺れてしまう。」とか、「根が柔らかくなりすぎて、心配。」等、児童の発言がつながり、適切な水の量について自覚させることができた。また、「だけど、暑い日はよく乾くからたっぷりとはげないといけないよ。」という児童の発言を、「暑い日の世話」として板書で整理することで、「雨の日は少しにしているよ。」等、天気による世話の仕方の違いについて考えることができた。さらに、「休みの日の水も考えないといけないよね。」という発言について発問することで、「下からも水を吸うから、ペットボトルを反対向きにすればいいよ。」など、発言がつながっていった。

「日当たり」については、アサガオの鉢を移動している児童を写真で紹介することで、自分なりに工夫して場所を決めていることについての発言が増えた。「朝はこっちから太陽が当たっているから、アサガオの向きも気にしているんだ。」と発言する児童がいる等、日当たりについて考えることができた。

「土」については、「アサガオの花は50から80個咲くけど、たくさん咲かせるには、元気がないのは引っっこ抜かないといけない。」という発言から、「かわいそう。」「根っこが心配。」「葉も傷ついてしまう。」など、自分なりの思いを口々に言う児童が出てきた。土の栄養を考えての発言が多くあったが、児童がまだ交流したい様子で本時が終わってしまった。板書を残し、次時に「水と太陽のことを気にしてお世話をしていくんだね。」と話すと、「土も気にしているよ。」というつぶやきがあった。問い返すと、「アサガオだって御飯が必要だよ。」「植えるときにも土につぶつぶ入れたよ。」「肥料を2年生の先生がくれたんじゃない。」など発言がながっていき、肥料に対する必要感が高まっていった。(写真2)そこで、2年生の先生からプレゼントされた肥料を児童に渡し、追肥を行った。



写真1 肥料のプレゼント

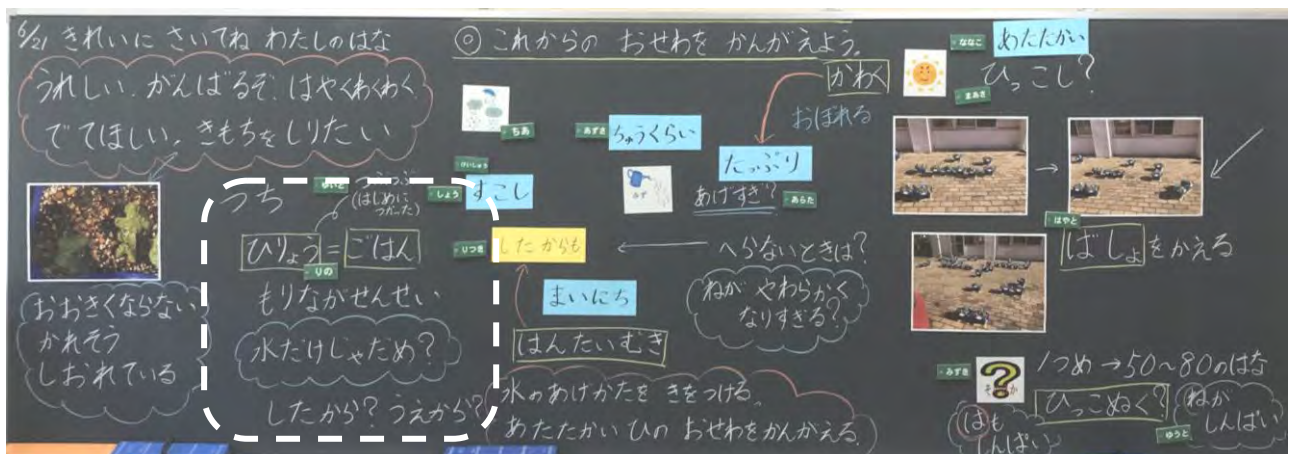


写真2 次時に交流した後の板書 ※点線が追記

(2) 考察

児童のこれまでの世話の様子を基に、教師が思考を整理する視点を「水」「土」「日当たり」で分類し、それぞれの気付きを関連付け、板書で整理したことは効果的であったと考える。このことは、「水はたっぷりあげないといけないよ。」という児童に対して、「でも、アサガオが溺れてしまう。」「だけど、暑い日はよく乾くからたっぷりとあげないといけないよ。」と、児童が発言をつなぎ、「水」と「種」、「水」と「日当たり」等について関連付けて考えていることから判断できる。

特にA児は「休みの日の水も考えないといけないよね。」という発言に対して、「下からも水を吸うから、ペットボトルを反対向きにすればいいよ。」と「土」と「水」について関連付けた発言をしていた。また、B児は、「雨の日は、少ししかあげなくてもいいよ。雨がかわりにあげてくれるから土も濡れている。」と「水やり」と「天気」を関連付けた発言をしていた。

今後は、交流を通して自分のアサガオにあった世話を見通し、世話を実際に試し、学習を終えるなど一単位時間の充実も必要であると考え。本実践は、「水」「土」「日当たり」という視点で一度に交流したが、「水」の視点で交流している際に、「自分のアサガオに水をあげないと。」と思った時点で、実際に水をあげにいくなど、児童の思考に沿った活動の組み合わせも考えられる。表現活動により児童の目的意識や相手意識が明確になり、思いや願いをもって行為しようとしている時に体験活動を行うなど、単元だけではなく一単位時間の中でも児童の学びがつながるような手立てや活動の設定を考えていくことが、次の学びに生かす生活科の学習につながると考える。

2 適切なフィードバックのための評価規準の具体化

(1) 結果

本単元では、アサガオの栽培を通して、一人一人が自分自身の成長に気付き、生き物への親しみをもち、大切にしようとすることを目指した。そのためには、児童一人一人の気付きと、思いを教師が把握し、適切な働き掛けをしていくことが大切であると考えた。

そのための手立てとして、評価規準の具体化と支援を要する児童への手立てを明確にした。本時の評価規準「植物を育てることについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現している。」の具体化は、上記の規準と、本時までの児童の世話の様子や発言などの見取り（資料1）から設定した。支援を要する児童の手立てについては、アサガオの発育不良がある児童、充実感を感じていない児童に対して有効であるかどうかを中心に考えた。

本時では、自分のこれからの世話について考える時間を設定し、適切な働き掛けをしていった。C児（資料1の①）は、本時までに発育不良の自分のアサガオについて不満があり、本葉が出る前に引き抜いたり、「もう育てたくない。」と言ったりして、わざと水をあげないようにすることもあった。しかし、C児はアサガオの育て方を学級にある本で継続的に調べる様子があり、水のやり方や花が咲くまでの日数等を伝えてくることもあった。そこで、事前にC児だけが知っているアサガオの知識を想起させるための言葉掛けとして、「今日はどんなお世話が必要なの。」を想定しておいた。理由は、C児は、花が咲くまでの日数や、つるが伸びてきた時の世話の仕方、暑い日が続く時の世話の仕方などを、本で調べていたからである。

本時において、アサガオ日記を書く場面に声を掛けたことによって、「明日は、休みだからお水をたっぷりあげるんだ。」と伝えていた。また、その後の世話では、毎朝の水やりや雑草取りの世話を友達と楽しく行う様子があった。そして、初めて花が咲いた時には、朝の会で嬉しそうに伝えていた。

「死なせたいから雑草入れたんだ。」
水を大量に入れる。じっくりみたらカード、「わー雑草だ。」「もう育てたくない。」

資料1 前時までの見取り

(2) 考察

適切なフィードバックのための評価規準の具体化は、概ね効果的であったと考える。このことは、本時の後にC児が朝の水やりで水の量やあげ方に気を付けていたことや、鉢を移動していたことから判断できる。特に、花が咲いた時に嬉しそうに友達に伝えるなど、アサガオへの関わりが変わり、世話を続けていることから判断できる。

このように、評価規準の具体化は大切であるが、見取るのが難しい場面や規準に達しているのか判断に迷うことが多くある。今後も継続して研究を進めていく必要があると考える。

IV まとめ

本研究では、気付きの質を高め、児童自身が学びをつないでいくための、表現活動の工夫について明らかにしようとした。そのために、「児童の思考を整理する板書と発問の工夫」「適切なフィードバックのための評価規準の具体化」の2点について、「きれいにさいてね わたしのはな」の実践を基に論を展開した。以下に成果と課題を示す。

1 成果

○教師が明確な視点をもち、児童の気付きを、その視点に基づいて板書で整理することで、新たな気付きが生まれ、自分自身の体験活動に生かしていくことにつながった。

○活動において目指す児童の姿を明確にし、適切な働き掛けをすることで、児童一人一人がよさを学びで発揮させることができた。

○教師が適切な働き掛けを続けることで、児童は学習対象への思いを強くもつようになり、自信をもって積極的に関わっていくことができるようになった。

2 課題

○一単位時間の学習の充実についてもさらに考えていく必要がある。例えば、「振り返り、見通す表現活動」と「実際に試す体験活動」を一単位時間に組み込む等、体験活動と表現活動の組み方については、さらに研究を進めていく必要がある。

○単元や一単位時間での評価規準の設定の仕方と指導への生かし方については、さらに研究を進めていく必要がある。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領 文部科学省 東洋館出版 平成29年 7 月
- 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 東洋館出版 平成29年 7 月
- 小学校学習指導要領解説 生活編 文部科学省 平成29年 6 月
- 初等教育資料 No. 951「生活科における改訂の具体的な方向性」
文部科学省 東洋館出版社 平成29年 3月
- 初等教育資料 No. 954「学習指導要領改訂のポイント 生活科」
文部科学省 東洋館出版社 平成29年 6 月
- 初等教育資料 No. 960「生活科における主体的・対話的・深い学びの実現に向けた授業改善」
文部科学省 東洋館出版社 平成29年10月
- 初等教育資料 No. 968「生活科における資質・能力の育成に向けた授業づくり」
文部科学省 東洋館出版社 平成30年 6 月
- 新教科誕生の軌跡 吉富芳正 田村 学著 東洋館出版社 平成26年 6 月
- 教育の効果 ジョン・ハッティ著 山森光陽監訳 図書文化 平成30年 2 月